

「命をつなぐ地球環境を考えよう!」

12月15日(日)

1時30分集会 横須賀ヴェルニー公園

2時 パレード出発 市役所前公園まで



米海軍横須賀基地が原子力空母の母港となって16年になります。秋に原子力空母ジョージ・ワシントンが再配備されます。いつまで米国外でただ一つの原子力空母の母港の街横須賀が続くのでしょうか?

1945年7月横須賀海軍港は空襲を受け多くの市民が亡くなっています。アメリカに日本が守られているという人々がいます。しかし、横須賀は標的の街なのです、原子力空母がいる限り危ない街なのです。「原子力空母はいりません! 戦争の道具はいりません!」 12月15日はサンタパレードです、子どもたちに光る未来を!平和の花を届けたいと企画しました。皆さんお誘いあわせてご参加ください。サンタと一緒に歩きましょう。

## 〈 海に浮かぶ怪物 〉

今年のノーベル平和賞は日本原水爆被害者団体協議会に贈られる。これは核兵器を持つ国、それを許す国に対する大きな警告である。

横須賀にはアメリカの原子力空母がやってくる。それは海に浮かぶ巨大な核兵器だ。

もしも攻撃されたら、事故を起こしたら私たちは計り知れない放射能に晒される。

又、原子力空母は戦争の道具だ、戦争によってたくさんの二酸化炭素が排出される、そして気候危機はさらに進む。

私は放射線で苦しむのも、沸騰し続ける地球に住むのもごめんだ。(I.T)



2024年8月6日 エプロン666回



「街の時計になろう!」を合言葉に

\*エプロン Y デッキ 横須賀中央駅ワイデッキ  
毎週火曜日 1時から2時まで(祭日・雨天中止)  
どなたでも参加できます。

連絡先 080-8028-3357 ヤマシロ

## 戦争から帰ってきた人と暮らした子どもたち

幼い頃から、酒に溺れては母を殴る父親を心底軽蔑していた。父親を追い詰めたのが、実は戦争トラウマだったのでは、と思い至ったのは、父親を病で亡くして半世紀近くになってからだ。今年の6月、復員兵だった父親の軍歴証明書を役所に申請した。父親は中国大陸にいた後、「枕木一本死者一人」と言われる過酷な泰緬(たいめん)鉄道の建設にも携わっていた。

父への憎悪がようやく溶けてきた。「私たちは『戦争を知らない子どもたち』と言われたが違う。戦争から帰ってきた人と暮らした子どもたちです」かくれんぼ遊びをすれば押入れの奥に汚れた軍服。戦争の影が家のそこそこにおちていた。(74才男性)



今年の夏は猛暑日が33日間続き、健康被害を受けた人は多くいます。CO2の排出による地球環境が温暖になり猛暑日が続く、豪雨被害も起きています。CO2を多く輩出する石炭火力発電は止めて、再生可能エネルギーによる発電を進めていくことは大切です。又、世界では他国間の戦争で街を壊し、人々の生活を壊しています。森を焼き払い益々CO2をだしています。

際モパレードに  
参加します!

「きれいな空気を吸いたい!」  
「気候危機をもたらす、CO2を大量排出する石炭火力発電に反対です!」  
「再生可能エネルギー発電をもっと増やしていこう!」  
「原子力発電(核エネルギー)に依存しない社会にしていこう!」 (S.K)

## 日本国憲法 前文(一分抜粋)

われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。

われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立とうとする各国の責務であると信ずる。———略



2024年5月16日  
ロナルド・レーガン  
が米国に帰った。

